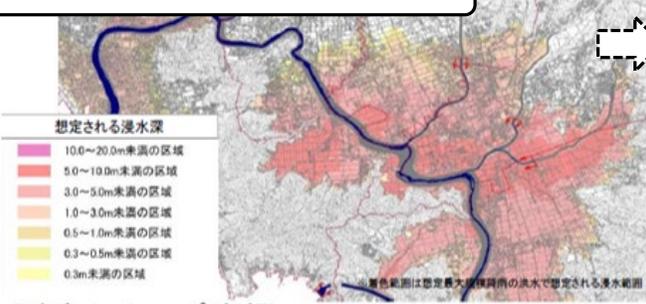


多段階の浸水想定図 水害リスクマップについて

1. 多段階の浸水想定図・水害リスクマップの概要

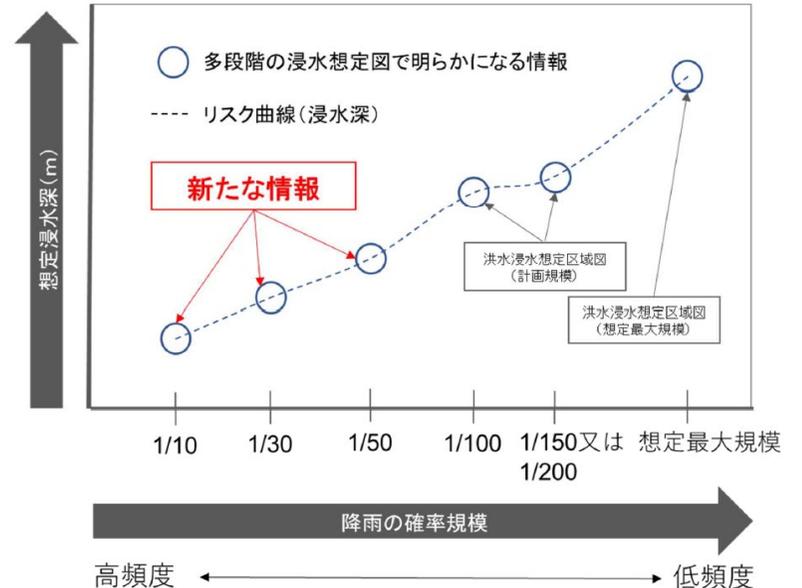
- 水害リスクを踏まえたまちづくりや住まい方の工夫、企業の立地選択、企業における事業継続計画の作成等流域治水の取組を推進するため、浸水の生じやすさや発生する頻度を示す新たな水害リスク情報を整備し、水害リスクの充実を図る必要がある。
- 上記を踏まえ、これまでに作成した想定最大規模や計画規模よりも発生頻度の高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにした「多段階の浸水想定図」と浸水頻度を示す「水害リスクマップ」を作成。

○水害ハザードマップ（従来）

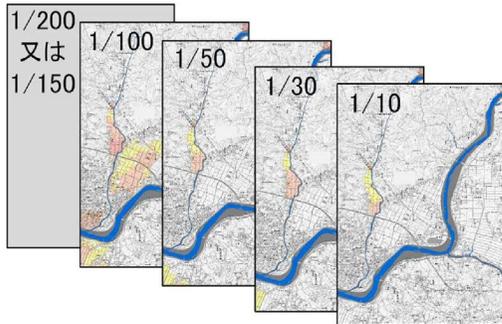


■これまでの、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供。
 ■避難計画や避難行動に用いる場合には有効であるものの、浸水の生じやすさや浸水が発生する頻度が明らかにはなっていない。

※水害リスクは、河川氾濫や内水氾濫等による水害の「発生確率」と「被害規模」の組合せで表現される。下図は、横軸に降雨の確率規模（発生確率）、縦軸に想定浸水深（被害規模）を表したイメージ図。

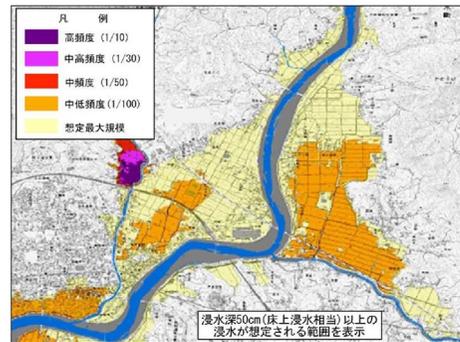


多段階の浸水想定図



■高頻度～中頻度～低頻度で発生する降雨規模毎（年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100、1/150 又は1/200）に作成した浸水想定図。

水害リスクマップ（浸水頻度図）



■多段階の浸水想定図を用いて、降雨規模毎の浸水範囲を浸水深毎（0.0m 以上、0.5m以上（床上浸水以上）、3.0m 以上（1階軒下浸水以上））に重ね合わせて作成した図面。

- 現在のリスクに加え、将来のリスクも提示
- 土地利用規制や居住の誘導を促進
- きめ細やかな企業BCPの作成への活用、水害保険への水害リスクの反映 等